

京都市オープンデータポータルサイト「KYOTO OPEN DATA」機能要件

1 概要

京都市オープンデータポータルサイト「KYOTO OPEN DATA」WEB サイト（以下「市ポータル」という。）は、本市のオープンデータの取組に関する情報（取組の趣旨、活用事例など）を市民等に向けて掲示するサイトと、オープンデータを一元的に集約し、市民等が必要なオープンデータを容易に見つけることができる検索機能等を有するサイトから構成する。

2 トップページ

市ポータルにアクセスした際のトップページには下記の情報を表示すること。

- ・ オープンデータの検索フォーム
- ・ 最新の「京都市からのお知らせ」一覧（※自動生成機能要）
- ・ 最新の「新着／更新データセット」一覧（※自動生成機能要）
- ・ 最新の「データセット アクセスランキング」一覧（※自動生成機能要）
- ・ 最新の「データリソース ダウンロードランキング」一覧（※自動生成機能要）
- ・ フッターコンテンツ（バナー広告、所属住所等）
- ・ 下記「3 コンテンツ」に掲げる各コンテンツ

3 コンテンツ

下記に掲げるコンテンツのページを用意し、随時更新できる機能を実装すること。

- ・ 「ご利用方法」… オープンデータポータルサイトの利用方法（利用規約など）
 - ・ 「活用事例」… 本市オープンデータを利活用した事例（アプリケーション以外）の紹介
 - ・ 「アプリ一覧」… 本市オープンデータを利活用したアプリケーションの紹介
 - ・ 「京都市からのお知らせ」… オープンデータに関する各種お知らせ
 - ・ 「お問い合わせ」… 市民等からのお問い合わせメールフォーム
- （※ 通知先のメールアドレスは管理者により登録・変更可能とする）

4 データセットとデータリソース

データの管理方法は、データセット及びデータリソースの概念に基づくものとする。

データセット：同種のデータリソースのまとまりを格納するためのメタ・データ

データリソース：個別のオープンデータファイルに紐づくメタ・データ

なお、一般ユーザーがデータセットを新規作成した際、サイト管理者へメールで通知を送る仕組みを実装すること。

5 データの検索

データセットとデータリソースのそれぞれを検索できるようにすること。

データセットはキーワード検索に加え、行政分野、データの性質、更新日時順での絞り込みを可能とすること。

検索結果は、視認しやすい一覧の形式で表示されること。

6 サイトの管理システム

- (1) 各ユーザーは、アカウント ID とパスワードにより管理できるようにすること。
- (2) ユーザーが持つ権限によって利用できる機能が制限できるようにすること。

- (ア) 一般ユーザー（データを登録する一般所属用）

データセットやデータリソースの追加や削除、自己アカウントのパスワード変更が可能

- (イ) 管理者ユーザー（オープンデータ所管課による管理用）

一般ユーザーが作成したすべてのデータの編集権限に加え、下記すべての権限を持つ。

- ・ アカウントの管理 … ユーザーの新規登録、削除及びパスワード再発行
- ・ 組織の管理 … アカウントに紐づく組織情報の管理
- ・ 「ご利用方法」「活用事例」「アプリー覧」「京都市からのお知らせ」の記事の管理
- ・ フッターコンテンツ（バナー広告、所属住所等）の管理
- ・ 統計情報（アクセス数・ダウンロード数等）の確認及び CSV での出力
- ・ 操作ログの確認

- (3) 組織変更への対応

本市の組織名称等に変更があった場合に随時対応できるシステムとすること。

- (4) 操作ログの取得

各ユーザーが管理システム上で行った操作のログが蓄積されること。

- (5) 統計情報の収集

データセットやデータリソースへのアクセス数、ダウンロード数を随時集計し、月ごとにまとめて閲覧できる機能を実装すること。それらの情報の CSV でのダウンロードを可能とすること。

7 デザイン

- (1) デザイン

ポータルサイトのデザインは市民等が親しみやすいものとし、配色、ボタン配置等については、各画面で極力共通化すること。デザインやサイト構成については、本市と協議すること。

- (2) アクセシビリティ

本市におけるホームページの作成に当たり配慮すべき内容等を「JIS X 8341-3:2010」の箇条に沿って記載した「京都市ホームページ作成ガイドライン」

(<http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000091126.html>) に可能な限り準拠し、ウェブアクセシビリティに配慮したポータルサイトを構築すること。

- (3) スマートフォン対応

ポータルサイトは、スマートフォンやタブレットからの利用も考慮し、それぞれの端末に合わせたレイアウトが最適化されるデザインとすること。